

図画工作科学習指導案

6年3組 29名 指導者 高島芳倫

本授業は、以下の検証を行うものである。

- 鑑賞の学習には消極的な子どもたちに、自分の感性を生かして作品を自由に解説するという活動に取り組みさせることで、自分なりの見方や感じ方に自信をもたせることができたか。
- 個人で作品を鑑賞し自分の思いをもたせた後で、グループ活動での話し合いを設定したことによって、鑑賞の学習における言語活動を充実させることができたか。

1 題材 知ったかぶいのけすいばっちょ ～新・教科書美術館～ (鑑賞)

2 目標

教科書の作品や地元の美術館に展示されている作品を鑑賞しながら、作品に込められた作者の願いや思いを想像したり、思いや願いを表すための作者の工夫を読み取ったりして話し合うとともに、そのよさを感じ取ることができるようにする。

3 題材の評価規準

- 作品には作者のどんな思いや願いが込められているかを想像し、またそれを表すためにどのような工夫をしているかを意欲的に読み取ろうとしている。 【造形への関心・意欲・態度】
- 作品から想像したことや読み取ったことを、ワークシートに記入したり友達と話し合ったりしている。 【鑑賞の能力】

4 題材について

(1) 題材の価値

本題材は、美術作品が印刷された作品カードを子どもたちが無作為に選び、自由に作品に込められた作者の願いや思いを自分なりに想像したり、願いや思いを表すための作者の工夫を読み取ったりする鑑賞活動である。また、第1時から第2時までの間に、鹿児島市立美術館に休日を利用して子ども自ら作品鑑賞に出かけることを促し、そこで学んできたことを生かして第2時では友達と意見を交換し合い、鑑賞の能力をさらに高めるといった題材である。題材名の「知ったかぶい」と「けすいばっちょ」は、どちらも鹿児島県の方言で、前者は、「自分はあることについて全く知らないにもかかわらず、あたかも知っているように振る舞うこと」を意味し、後者は、「大人ぶった態度をとる子ども(地域によって多少解釈が違うようである)」を意味する言葉である。

この時期の子どもたちは、一人一人の感じ方や見方が育ち、鑑賞活動では形や色などから分析的に見たり意図や気持ちなどを読み取ったりするなど、作品を深くとらえることができるようになる。また、自分の感じ方や見方を深めることで、自分らしい感覚や判断を働かせ、自らの表現についても見直し、願いや思いを他者に十分伝えるためにはどのような表し方をすればよいのかといったことにも関心をもつことも期待できる。

本題材の価値は、作品を見て自分なりに想像したことや読み取ったことを友達と意見を交換することによって、自分らしい感性を大切にしたい鑑賞活動ができたことを実感できるというところにある。また、表現方法の幅の広さや深さに気付いた子どもたちが、自分らしい感性をこれからの表現活動に生かそうとすることが期待できる点にも、この題材の価値があると考えられる。

(2) 子どもの実態と指導

本学級の子どもたちは、図画工作科の学習に意欲的であるが、そのほとんどが表現活動に限定されており、鑑賞活動に対する関心は必ずしも高いものではない。鑑賞は「よく分からない」「難しい。」と考えている子どもが多く、「作者の思いが自分の想像したものと違ったから嫌だ。」という子どももいる。そのため、まず、日常生活は見方を変えれば「鑑賞」の連続であるため、みんな得意なはずだが、対象が美術作品となるとほとんどの人が途端に身構えてしまうという傾向にあることに気付かせ、その固定概念を取り去りたい。その上で題材名を紹介し、「名画について自由に語ってしまおう。」と呼びかけることで、軽やかで愉快的鑑賞活動へと導く。教師は、その美術作品に一定の評価がされているからといって、子どもたちに価値あるものとはいえないということを認識し、鑑賞とは、ある作品にまつわるお話を聞き入れるものではなく、鑑賞者自身が作品との出会いを通じて感じたこと、思ったことを一つ一つ言葉などを通して紡いでいく行為であるということ、この学習を通じて子どもたちに気付かせる。また、一貫して自分の見方や感じ方を大切に、自信をもつことができるような声掛けを行うことで、一人一人の子どもがもつ感性の豊かさに気付かせたい。

5 指導計画（総時数2時間）

過程	主な学習活動【評価規準】	時間
思いをもつ	1 提示作品から作者の思いや工夫について話し合い、作品を鑑賞する視点に気付く。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> 実態調査の結果も参考にしながら、美術作品だからといって身構えず、自分らしい見方や感じ方を大切にして作品を鑑賞するようにし、自由な雰囲気づくりをする。 </div> 【関：作品には作者のどんな思いや願いが込められているかを想像し、またそれを表すためにどのような工夫をしているかを意欲的に読み取ろうとしている。】 	1 (本時)
思いをふくらます	2 学習のめあてをとらえる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> 「子ども学芸員」になりきって、名画を知ったかぶい解説しよう。 </div> 3 作品を鑑賞し感じたことなどを書いた後、グループで意見を交換し合う。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> 作品の色や形、またかかわれている具体物から推測し、すべての想像力を駆使して、「世界に君だけしか知らないお話」を、自信をもってつくるように助言する。 </div> 【鑑：作品から想像したことや読み取ったことを、ワークシートに記入したり友達と話し合ったりしている。】 	
思いを表現する／ 自他のよさに気付く	4 グループで話し合ったことをもとに、「子ども学芸員」として作品を解説し合う。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> 子どもの解説を全て肯定し、共感する言葉掛けをするとともに、即興で質問をすることで、さらにお話を深めていかなければならない状況をつくり、まだまだ鑑賞をより深めることができるということに気付かせたい。 </div> 5 鹿児島市立美術館で鑑賞した作品について、「子ども学芸員」になりきって解説する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> 美術館で見た解説の言葉と自分なりに作品を解説した文を比較する活動も取り入れ、自分の感性の方をより大切にするようにする。また、本物の作品を見た感想やその作品を選んだ理由も発表させることで、自分らしい豊かな感性があることに気付かせたい。 </div> 	1
新たな 思いをもつ	6 鑑賞活動を通して分かったことを発表し合い、それをこれからの表現活動にどのように生かしていけそうかを考える。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> 6学年における表現の題材を知らせ、今回の学習がどのように生かしていけそうかということを具体的に考えさせることで、鑑賞と表現のつながりに気付かせる。 </div> 	1

6 本 時（1/2）

(1) 目 標

教科書の作品や地元の美術館に常設展示されている作品を鑑賞するなかで、自分らしい感性を働かせながら、作品に込められた作者の願いや思いを想像したり、願いや思いを表すための作者の工夫を読み取ったりすることができるようにする。

(2) 評価規準

作品から想像したことや読み取ったことをワークシートに記入したり、友達と話し合ったりしている。
【鑑賞の能力】

(3) 指導に当たって

これまでに子どもたちは、教科書の作品をもとに鑑賞活動をしてきているが、美術作品を鑑賞する学習となると、決まった話を聞き入れるものだという固定観念があり、途端に身構えてしまい、自由な発想で鑑賞活動ができないという傾向が強いということが分かっている。

思いをもつ段階では、対象をしっかりと見ることを意識させる。数枚の作品をみんなで鑑賞し、作者がどのような思いや願いでかいたか、作品をかく上でどのような工夫をしているかということ意識するようにし、子どもが発言したどのような言葉でも褒め、取り上げることで、自由な気持ちで鑑賞することにかかわれる環境をつくるとともに、作品を鑑賞する視点に気付かせる。

思いをふくらます段階では、ワークシートをもとに、自ら本時の学習の見通しをもたせる。作品カードは、子どもがお話をつくりやすいように、教科書掲載の作品や子どもたちがあまり見たことのないであろう世界の名画とし、人がかかかれている作品を中心に選ぶこととする。

思いを表現する／自他のよさに気付く段階で、鑑賞することに身構えてしまう子どもには、自分らしい感性を大切にして自由にワークシートに書くよう、個別に声を掛ける。グループでの話し合いでは、お互いの意見を尊重するように促し、それぞれのもつ自分らしい感性を認めあうこと、必ずみんなが主張できることをルールとして、活発な言語活動を行わせたい。

新たな思いをもつ段階では、子どもが自分の感じ方や見方を深められたことを褒めるとともに、願いや思いを他者に伝えるためにはどのようにすればよいかという表現方法についても、これまでの自分の表現と重ね合わせて考えさせ、鹿児島市立美術館への鑑賞活動へとつなげたい。

時	過程	主な学習活動と教師の手立て・評価
(分) ↑ 7 ↓	思いをもつ	<p>1 作品を見て、作者の思いや工夫について話し合う。「海老原喜之助『樵夫と熊』」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・冬眠中に起こされた熊が怒っている。 ・兄が弟を助けようとしている兄弟愛。 ・背景の水色に黒い熊が目立っている。
↑ 3 ↓	思いをふくらます	<p>2 ワークシートを見て、学習のめあてをとらえると同時に、学習の見通しをもつ。</p> <p>「子ども学芸員」になりきって、作品を知ったかぶい解説しよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・どういこと？何かおもしろそうだ。 ・え！？「知ったかぶい」でいいの？ ・なるほど。こんな学習なんだな。
↑ 28 ↓	思いを表現する／自他のよさに気付く	<p>3 作品カードを鑑賞し、感じたことや読み取ったことをワークシートに記入する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・環境保護を訴える思いが感じられる。 ・お笑い芸人が自分をかいた顔だよ。 ・さびしい時間が過ぎていく感じだ。 <p>4 同じ作品カードを持っているグループで集まり、さらに鑑賞を深め、話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○「デュビュッフェの作品『都会脱出』」 <ul style="list-style-type: none"> ・きっと魔女に姿を変えられたんだ。 ・地球の未来を表しているんだ。 ・体が壊れている。戦争がテーマかな。 ○「ピカソの作品『女の顔』」 <ul style="list-style-type: none"> ・化粧している芸人さんの自画像かな。 ・目つきが怖い。見る人を驚かせる。 ・筆の跡が荒い。激しくかいたんだな。 ○「押川元春の作品『寒山拾得』」 <ul style="list-style-type: none"> ・何か悪いことを二人で企んでいるな。 ・宝のありかを知って、「ニヤリ」。 ・唇をわざとゆがませる工夫がある。 <p>5 グループで話し合ったことをもとに、「子ども学芸員」が作品の解説する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・この作品は、去年アメリカの陽気な画家が、見る人を楽しませるために、この絵の中にいろんな人を隠しました。 ・1945年にイタリアの画家が戦争でボロボロになった町をかきました。曲がった時計はさびしい感じを、青い空は平和を願う気持ちを表しています。
↑ 7 ↓	新たな思いをもつ	<p>6 本時の学習の感想とともに、鹿児島市立美術館の作品を鑑賞しに行くに当たって、どのようなことに気を付けたいかを考え、発表し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・前に行ったときと違う感覚だろうな。 ・どんな絵でも解説してみせるぞ。 ・美術館の学芸員と話をしてみたいな。

美術作品の鑑賞だと身構えることがないような雰囲気をつくった後、子どもの発言から作品を自由に鑑賞する視点を取り上げる。



題材名ボードを使って題材名を説明することで、学習の見通しをもたせ、学習内容を把握させる。



子ども学芸員バッジや白い手袋などを紹介し、活動意欲を高める。



周囲の意見や主張等にとらわれず、自分らしい見方を大切にして、自由に楽しんで鑑賞するように助言する。



思いをもつ段階で提示した鑑賞する視点に気を付けて作品を見るように、個別に指導する。



※ 作品から想像したことや読み取ったことをワークシートに記入したり、友達と話し合ったりしている。(活動・ワークシート)

○ 活動が進んでいる子どもには、自分の解説の言葉が友達に分かりやすいかどうかを確かめさせ、より具体的に伝わりやすい解説文にするように助言する。

○ 活動が停滞している子どもには、作品のどの部分が気になるかについて問答しながら、自分らしい見方や感じ方を価値付ける言葉掛けを行い、活動に自信をもたせる。

お互いの意見や感性を認め合うように伝える。また、気付きにくい、色と形の工夫に気付かせるための言葉掛けを中心に行う。



発表者には学芸員バッジと手袋を付けさせ、作品にかかれた具体物がみんなに見えるよう、作品をテレビ画面に拡大して表示する。



鹿児島市立美術館の学芸員からの子どもたちへのビデオメッセージを見せ、次時への意欲を高める。



授業内での子どもの発言などから、豊かな鑑賞活動と豊かな表現活動がつながっていることに気付かせ、次時の学習への意欲を高める。

